

第4章 考察

---

## 4.1. 手法について

### 4.1.1. 一般原価調査の手法について

一般原価調査における、(1) 精度を維持した簡略化、(2) 医師勤務に関する調査の比較調査について、以下に記載する。

#### (1) 全般

精度を維持した簡略化では、調査項目の削減及び直接計上情報の限定を行った。結果、一般原価調査によるデータ収集を40日程度で行うことができた。

さらに、レセプト・データの代替方法として、Eファイルを用いた収集を行い、部門別収支計算を行うことができた。

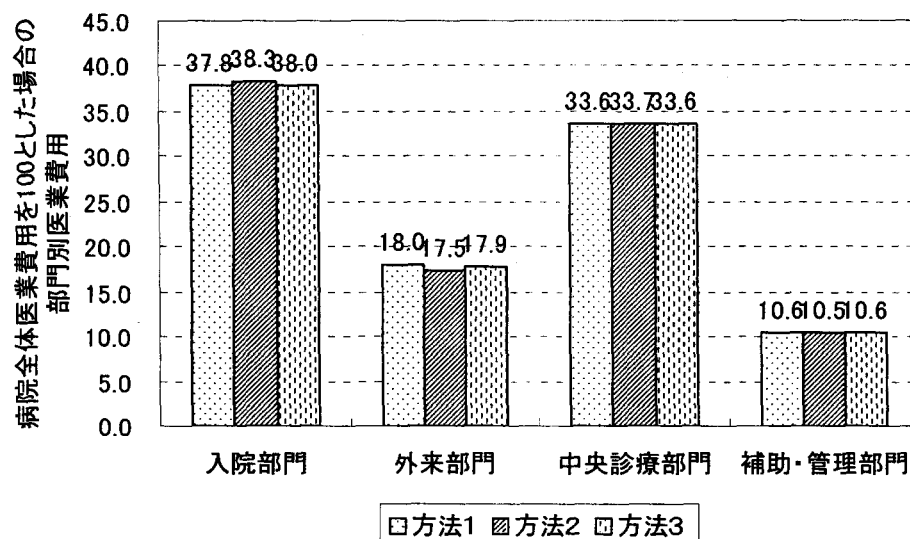
#### (2) 医師勤務に関する調査の比較について

医師勤務に関する調査では、病院ごとに、調査班にて用意した3つの方法のうち、いずれかを選択し調査を行った。

一方で、調査方法を比較する観点から、1病院（C病院）に対し、これらの方法を併せて実施した。

調査方法ごとの部門別の医業費用は、以下のとおりであった。

図表 4-1 医師勤務に関する調査方法ごとの一次計上結果（医業費用合計）



ただし、それぞれの方法は以下のとおりである。詳しくは、「第2章 方法」を参照のこと。

方法1：医師が調査票に記入する方法

方法2：医師および事務部門責任者が記入する方法

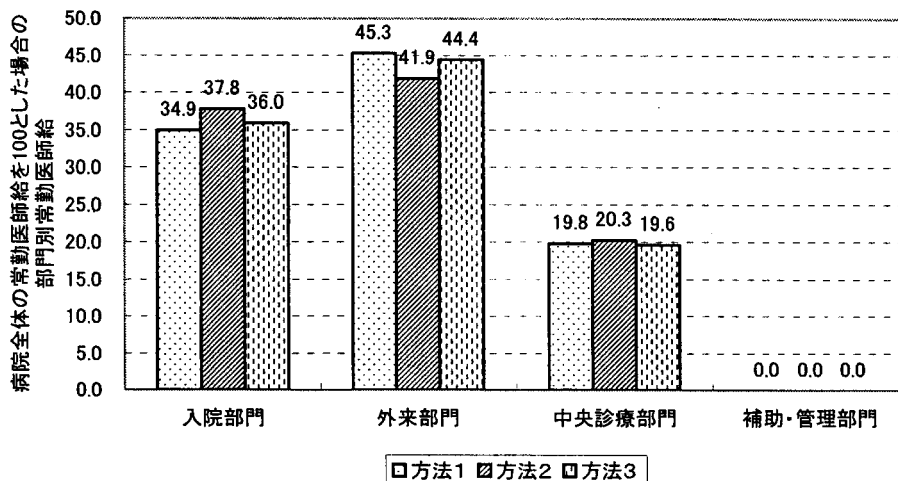
方法3：医師所属部門責任者が、診療科別医師・歯科医師勤務比率を記入する方法

医師勤務に関する調査は、常勤医師給および非常勤医師給の配賦に用いる。

調査方法ごとの部門別の常勤医師給は、図表 4-2 のとおりであった。

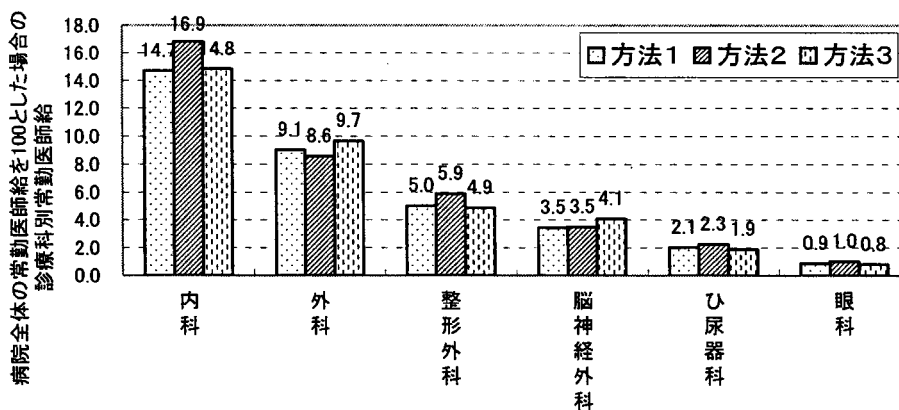
図表 4-2 をみると、方法 2 に対し、方法 1 と方法 3 は類似した傾向を示した。これは方法 2 が外来部門と、外来部門を除く部門で記入者が異なるのに対し、方法 1 および方法 3 は同一記入者が記入するためと考えられる。

図表 4-2 医師勤務に関する調査方法ごとの一次計上結果（常勤医師給）

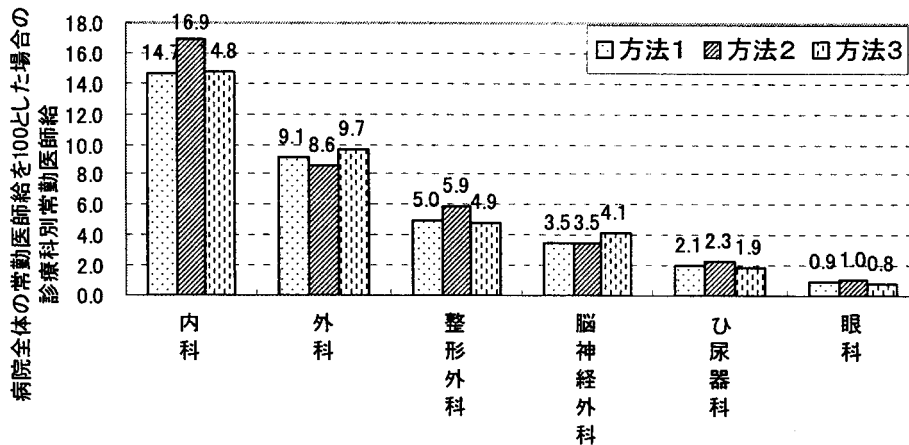


入院部門及び外来部門における診療科別常勤医師給比率は、図表 4-3、4-4 のとおりであった。ここでも図表 4-2 と同様に方法 1 と方法 3 は類似した傾向を示した。

図表 4-3 医師勤務に関する調査方法ごとの一次計上結果（常勤医師給）  
（入院部門）

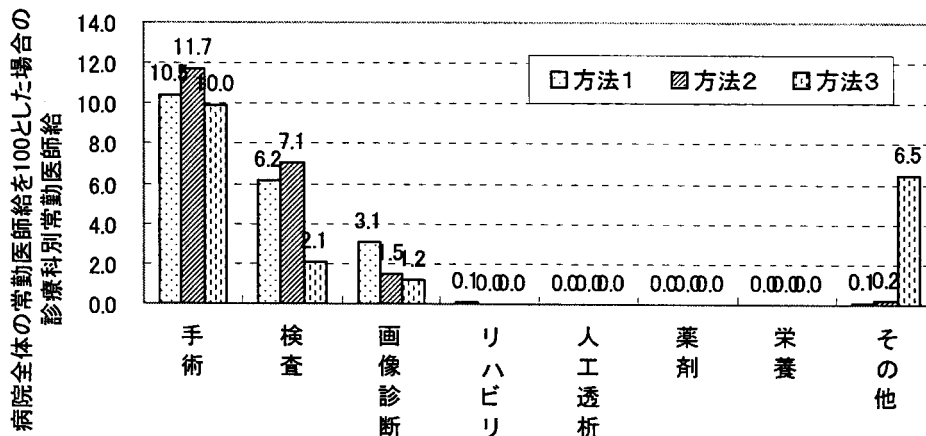


図表 4-4 医師勤務に関する調査方法ごとの一次計上結果（常勤医師給）  
（外来部門）



中央診療部門について、部門別常勤医師給をみたところ、以下のとおりであった。

図表 4-5 医師勤務に関する調査方法ごとの一次計上結果（常勤医師給）  
（中央診療部門）



（注）図表中「リハビリ」はリハビリテーションを表す。

（3）まとめ

医師勤務に関する調査について方法間で比較を行ったところ、医師給に占める割合の差は、部門ごとに最大でも6%程度であった。

医師勤務に関する調査では部門により記入者が異なる方法2より、全ての部門を同一記入者が記入する方法1もしくは方法3が正しく比率を把握できると考えられる。また、方法1と方法3については、調査票記入方法から、方法1がより精度を確保できるものと考えられるが、方法1と方法3で調査結果の差異が小さいことと、職員への作業負荷において方法3が小さいことから、今後は方法3を用いることとする。

### 4.1.2. 特殊原価調査の手法について

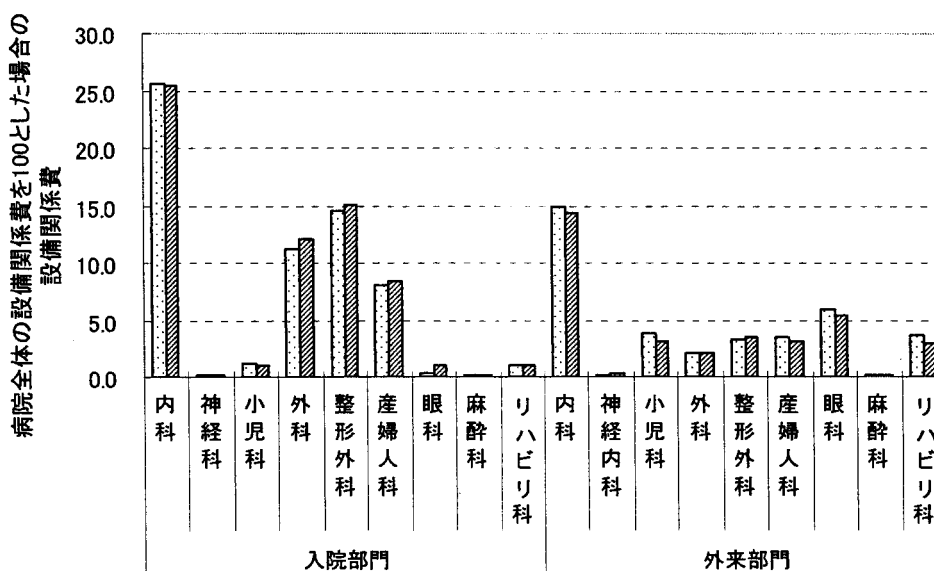
特殊原価調査について、平成17年度調査研究では、新たに医療機器の設備関係費の調査を行った。

設備関係費に関する調査対象病院は3病院であった。このうち、2病院（A病院、E病院）について併せて一般原価調査を行い、三次配賦に1）「設備関係費の等価係数を用いた場合」、2）「延べ患者数比を用いた場合」のそれぞれの収支計算結果を比較した。

#### (1) A病院

三次配賦手法ごとの設備関係費の入院・外来ごとの診療科別三次配賦結果は、図表4-6のとおりであった。

図表 4-6 三次配賦手法ごとの  
設備関係費の入院・外来ごとの診療科別三次配賦結果（A病院）



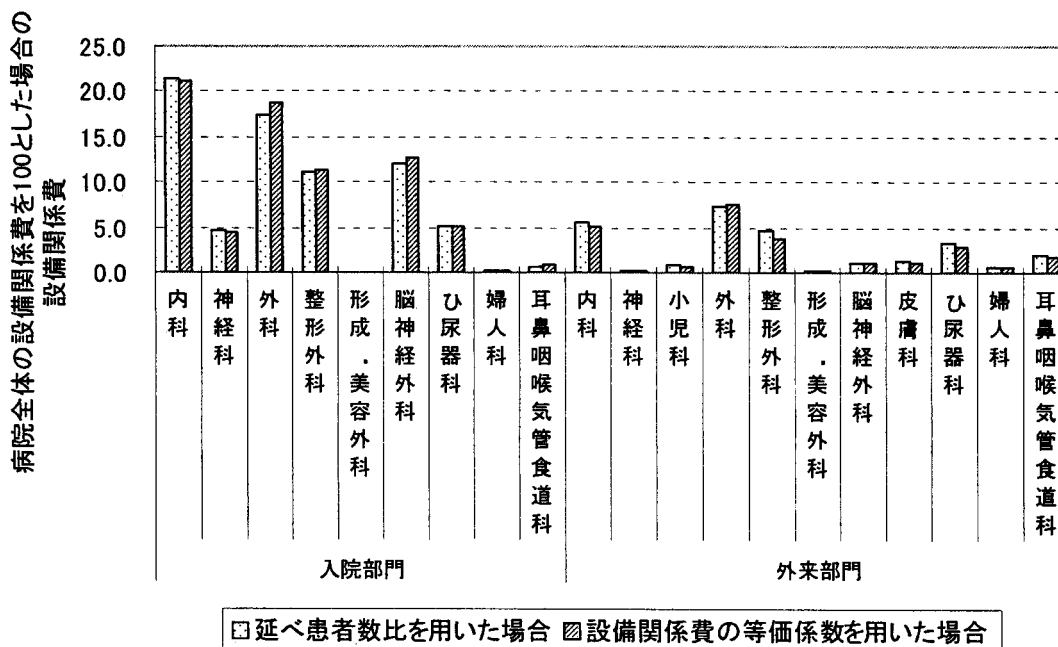
□ 延べ患者数比を用いた場合    ▨ 設備関係費の等価係数を用いた場合

(注) 図表中「リハビリ科」は、リハビリテーション科を表す。

(2) E病院

三次配賦手法ごとの設備関係費の入院・外来ごとの診療科別三次配賦結果は、図表 4-7 のとおりであった。

図表 4-7 三次配賦手法ごとの  
設備関係費の入院・外来ごとの診療科別三次配賦結果 (E病院)



(注) 図表中「耳鼻咽喉気管食道科」は、耳鼻いんこう・気管食道科を表す。

(3) まとめ

設備関係費の三次配賦に、延べ患者数比を用いた方法と、設備関係費の等価係数を用いる方法について比較を行ったが、設備関係費の総額に対して、診療科別の三次配賦結果に、大きな差異は見られなかった。

よって、今後はより簡便な延べ患者数比を用いて、設備関係費の三次配賦を行うこととする。

## 4.2. 調査結果について

収支計算結果における、施設全体の医業収益を100としたときの収支差額率(三次配賦後)は図表4-8のとおりであった。

入院部門がプラスで外来部門がマイナスの病院が5施設、入院部門がマイナスで外来部門がプラスである病院が2施設、入院部門・外来部門がともにプラスが1施設で、両部門ともマイナスの施設はなかった。

平成16年度も調査協力病院であった4施設については、昨年同様の入院・外来別の収支傾向がみられた。

図表 4-8 医業収支差額 (三次配賦結果)

病院名	医業収支差額			医業外収支差額	備考
	入院部門	外来部門	合計		
A病院	4.6	10.9	15.5	0.8	
B病院	-8.4	8.3	-0.1	0.0	
C病院	6.1	-6.7	-0.6	-1.5	H16参加
D病院	9.2	-5.0	4.2	1.7	H16参加
E病院	2.9	-5.5	-2.6	0.9	H16参加
F病院	8.7	-4.5	4.2	-0.9	
G病院	0.1	-5.7	-5.6	2.2	H16参加
H病院	-1.1	1.7	0.6	0.7	

各施設の入院外来別医業収益と医業費用の施設全体医業収益に占める割合は下図表のとおりで、8病院の平均は、入院部門収益67.4%、入院部門費用64.6%、外来部門収益32.6%、外来部門費用33.4%であった。

図表 4-9 医業収益と医業費用 (三次配賦結果 入院部門・外来部門)

病院名	医業収益		医業費用		備考
	入院部門	外来部門	入院部門	外来部門	
A病院	50.2	49.8	58.6	41.5	
B病院	70.6	29.4	71.7	27.8	
C病院	68.4	31.6	62.3	38.3	H16参加
D病院	69.4	30.6	60.2	35.6	H16参加
E病院	75.4	24.6	72.5	30.1	H16参加
F病院	56.9	43.1	52.3	32.2	
G病院	67.8	32.2	67.7	37.9	H16参加
H病院	80.3	19.7	71.6	24.2	
平均	67.4	32.6	64.6	33.4	

## 4.3. DPCコスト調査研究との比較

DPCコスト調査対象病院について、『診断群分類を活用した医療サービスのコスト推計に関する調査研究（DPCコスト調査研究）』（以下、DPCコスト調査研究とする。）調査班の協力により、DPCコスト調査研究と、部門別収支調査研究の比較を行った。

具体的には、（1）収集データの比較、（2）階梯配賦と階梯把握の比較、および（3）三次配賦結果と三次把握結果の比較を行った。

ただし、収集したデータの記録状況を踏まえ、E病院およびH病院について比較分析を行った。

## (1) 調査対象とデータ収集について

DPCコスト調査対象である図表 4-10 の病院について部門別調査を併せて実施した。

図表 4-10 DPCコスト調査比較対象病院および分析対象年月一覧

No	比較対象病院名	分析対象年月	
		DPCコスト調査研究	部門別調査研究
1	D病院	— (注1)	平成17年10月
2	E病院	平成17年8月 (注2)	平成17年10月
3	F病院	— (注3)	平成17年10月
4	H病院	平成17年10月	平成17年10月

(注1) DPCコスト調査研究にて収集できなかった。

(注2) 平成17年8月データの使用についてDPCコスト調査の三次把握結果は、平成17年7月、8月データのみ計算できた。平成17年8月分データと、平成17年10月分データとの間に大きな変化は無いとして、平成17年8月分データを用いた。

(注3) データ収集は可能であったが、DPCコスト調査において把握された材料費を除く費用と、部門別調査研究において把握された材料費を除く費用の乖離が大きかったため、分析対象から除いた。



## (2) 収集データの比較

調査協力病院から収集したデータを比較した。比較対象は、DPC調査におけるコストデータ（D～J票）と、部門別収支調査研究の施設全体収支データである。

### (ア) 収集データにおける総額比較

収集データにおける総額比較において、DPCコスト調査研究と部門別調査研究では、給与費の取り扱い、勘定科目の取り扱いに違いがある。

以下に、主な相違点について記載する。

#### ① 給与費の取り扱い

部門別調査研究では、病院における給与の総額を捉えた上で、医師勤務に関する調査を用い部門別に按分する方法であるのに対し、DPCコスト調査研究では、標準単価の考え方にもとづき、国家公務員俸給表を用いたモデルコストとなっていることが主な相違点である。

以下に、医師と、医師を除く職員に分けて、違いをみる。

##### ・医師

DPCコスト調査研究では、勤務実績比率に国家公務員俸給表の給与を乗じて、部門別給与費を算定した。ただし、入力支援ソフトは個人ごとの勤務時間を入力し、勤務実績比率としていた。また、個人ごとの勤務時間は、便宜上、担当者がまとめて入力するものであった。

これに対し、部門別調査研究では、当該病院全体の給与費を収集し、勤務比率（医師勤務に関する調査結果）を用いて按分した。

##### ・医師を除く職員

DPCコスト調査研究では、職種ごとに、勤務比率（単位：人月）に国家公務員給与表の給与を乗じて、部門別給与費を算定した。ただし、入力支援ソフトから職種ごとに入力した「標準勤務時間 168 時間／月に対する比率」を勤務比率とした。

これに対し、部門別調査研究では、部門に直接計上した。

### ② 勘定科目の取り扱い

部門別調査研究での勘定科目が、『病院会計準則[改正版]』（平成16年8月）に沿ったものであるのに対し、DPCコスト調査研究の勘定科目はこれと異なる。具体的には、以下の違いがある。

DPCコスト調査研究では、「賞与引当金繰入額」、「退職給与費用」、および「法定福利費」を職種ごとの平均給与に含めて計上していた。また、「固定資産税等」、および「控除対象消費税等負担額」が調査票に設けられていなかった。

部門別調査研究では、DPCコスト調査研究に対し、賃借料における「その他」、「その他の機器備品」、「情報システム」が調査票に設けられていなかった。調査に用いた損益計算書が、病院の費用総額を正しく捉えるものであったため、他の科目に、計上されていたものと考えられる。

次頁以降に、病院ごとの結果を記載する。

## (イ) 病院ごとの比較結果

## ① E病院

E病院では、給与費について、DPCコスト調査研究が284,741,037円であったのに対し、部門別調査研究は232,700,000円であった。

また、保守委託費について、DPCコスト調査研究が3,883,628円を計上したのに対し、部門別調査研究は計上しなかった。

ただし、DPC（コストデータ）では材料費が把握されなかったため、図表4-11から、これを除いた。部門別調査研究の材料費計は、102,153,319円であった。

図表 4-11 DPC（コストデータ）と部門別（施設全体収支データ）の対応表  
E病院（材料費を除く） 単位：円

科目1	科目2	DPC	部門別
委託費	検査委託費	7,106,047	6,945,089
	給食委託費	9,427,792	9,123,120
	寝具委託費	597,835	602,695
	医事委託費	148,161	1,527,834
	清掃委託費	2,268,000	2,268,000
	保守委託費	3,883,628	0
	その他の委託費*	3,601,663	3,745,787
委託費計		<b>27,033,146</b>	<b>24,212,525</b>
給与費	医師給	81,924,271	63,505,283
	医療技術員給	43,462,004	21,861,187
	看護師給	120,793,869	70,420,345
	技能労務員給	0	4,030,928
	事務員給	38,560,893	15,624,910
	賞与引当金繰入額		0
	退職給与費用		0
	法定福利費		57,257,347
給与費計		<b>284,741,037</b>	<b>232,700,000</b>
経費	印刷製本費・広告費	1,042,755	601,167
	会議費	0	0
	交際費	300,411	257,625
	光熱水費	13,812,927	9,325,799
	雑費	3,368,106	2,138,078
	車両費	284,214	18,040,000
	修繕費	1,011,180	814,455
	諸会費	44,000	143,400
	消耗品費・消耗品器具備品費	3,071,629	1,417,078
	職員被服費	1,063,101	1,197,498
	租税考課	214	87,058
	徴収不能損失	0	0
	通信費	1,055,539	1,309,521
	福利厚生費	423,218	2,209,967
	保険料	5,571,429	6,997,711
	旅費交通費	213,563	240,730
経費計		<b>31,262,288</b>	<b>44,780,087</b>
貸借料	その他	93,854	
	その他の機器備品	347,844	
	医療用設備機器	4,838,252	6,710,000
	建物・土地(地代家賃)	5,836,427	5,730,000
	情報システム	2,468,265	
貸借料計		<b>13,584,642</b>	<b>12,440,000</b>
設備関係費	その他の減価償却費	10,098,358	5,856,618
	医療用器械備品	2,047,010	2,047,010
	放射性同位元素	0	0
	固定資産税等		0
設備関係費計		<b>12,145,368</b>	<b>7,903,628</b>
研究研修費		<b>883,536</b>	<b>672,967</b>
法人経費		<b>19,047,540</b>	<b>12,520,000</b>
控除対象外消費税等負担額			0
病院費用計(材料費を除く)		<b>388,697,557</b>	<b>335,229,207</b>

(注) 網掛け部分は、調査票に設けられていない項目を示す。

第4章

② H病院

H病院では、給与費について、DPCコスト調査研究が1,241,686,089円であったのに対し、部門別調査研究は915,486,984円であった。

また、保守委託費について、DPCコスト調査研究が31,027,746円であったのに対し、部門別調査研究は13,831,280円であった。

図表 4-12 DPC（コストデータ）と部門別（施設全体収支データ）の対応表  
H病院 単位：円

科目1	科目2	DPC	部門別
委託費	検査委託費	10,059,494	10,059,494
	給食委託費	12,892,493	12,892,493
	運具委託費	2,191,980	2,191,979
	医事委託費	6,634,369	6,634,369
	清掃委託費	19,183,197	19,183,188
	保守委託費	31,027,746	13,831,280
	その他の委託費*	27,065,116	27,065,112
	<b>委託費計</b>	<b>109,054,395</b>	<b>91,857,915</b>
給与費	医師給	336,971,305	229,101,432
	医療技術員給	254,364,501	146,275,065
	看護師給	540,180,355	330,125,568
	技能労務員給	28,751,161	48,433,448
	事務員給	81,418,767	48,552,014
	賞与引当金繰入額		0
	退職給与費用		19,521,680
	法定福利費		93,477,777
<b>給与費計</b>	<b>1,241,686,089</b>	<b>915,486,984</b>	
経費	印刷製本費・広告費	264,286	264,286
	会議費	431,471	431,471
	交際費	2,158,585	2,158,585
	光熱水費	62,648,137	62,648,138
	雑費	6,995,413	22,024,737
	車両費	31,636,367	5,568,098
	修繕費	6,673,004	6,673,004
	諸会費	1,467,000	1,467,000
	消耗品費・消耗品器具備品費	5,568,099	31,636,368
	職員被服費	0	0
	租税課税	50,206,891	180,391
	徴収不能損失	0	0
	通信費	2,657,025	2,657,025
	福利厚生費	983,249	983,249
	保険料	1,948,010	1,948,010
	旅費交通費	5,112,957	5,112,957
	<b>経費計</b>	<b>178,750,484</b>	<b>143,753,319</b>
賃借料	その他	1,312,198	
	その他の機器備品	10,924,167	
	医療用設備機器	2,883,000	2,883,000
	建物・土地(地代家賃)	452,624	11,150,127
	情報システム	1,515,478	
<b>賃借料計</b>	<b>17,087,467</b>	<b>14,033,127</b>	
設備関係費	その他の減価償却費	87,716,024	77,477,751
	医療用器械備品	29,722,250	29,722,249
	放射性同位元素	0	0
	固定資産税等		17,045,500
<b>設備関係費計</b>	<b>117,438,274</b>	<b>124,245,500</b>	
材料費	医薬品費	281,911,165	297,157,120
	医療消耗器具備品	13,658,140	16,569,660
	給食用材料費	20,223,147	18,069,458
	診療材料	128,747,922	124,195,120
<b>材料費計</b>	<b>444,540,375</b>	<b>455,991,358</b>	
研究研修費		6,387,695	5,345,584
法人経費		0	0
控除対象外消費税等負担額			32,881,000
<b>病院費用計</b>	<b>2,114,944,789</b>	<b>1,783,894,787</b>	

(注) 網掛け部分は、調査票に設けられていない項目を示す。

E病院、H病院はともに、DPCコスト調査研究の標準原価からモデル的に計算した病院費用が、部門別収支調査研究の実額と比べて1割以上高くなっていた。

(3) 階梯配賦（部門別）と階梯把握（DPC）の比較

階梯配賦（部門別調査研究）と階梯把握（DPCコスト調査研究）の部門別配賦比率を、病院ごとに比較した。

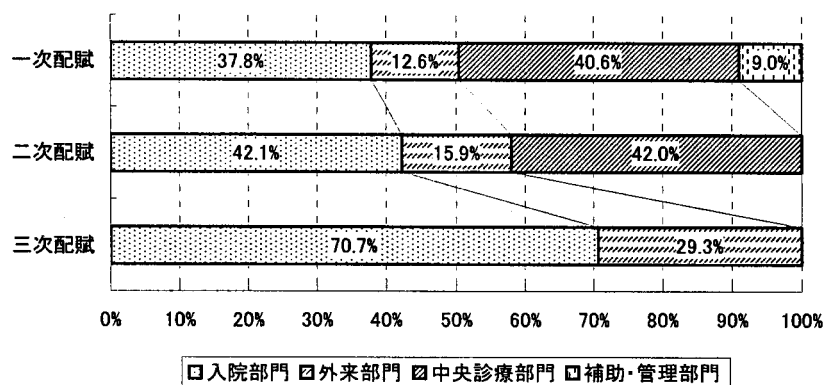
ただし、部門別調査研究における部門（入院部門、外来部門、中央診療部門、補助・管理部門）が、DPCコスト調査研究における部門（診療・入院、診療・外来、診療共通、一般管理補助）に対応するものとして、比較を行った。

(ア) E病院

三次配賦結果は、部門別調査研究では入院部門が70.7%、外来部門が29.3%であったのに対し、DPCコスト調査研究では、入院部門が69.3%、外来部門が30.7%であった。

図表 4-13

階梯配賦段階ごとの医業費用 部門比率 E病院(部門別)



図表 4-14

階梯把握段階ごとの医業費用 部門比率 E病院(DPC)

